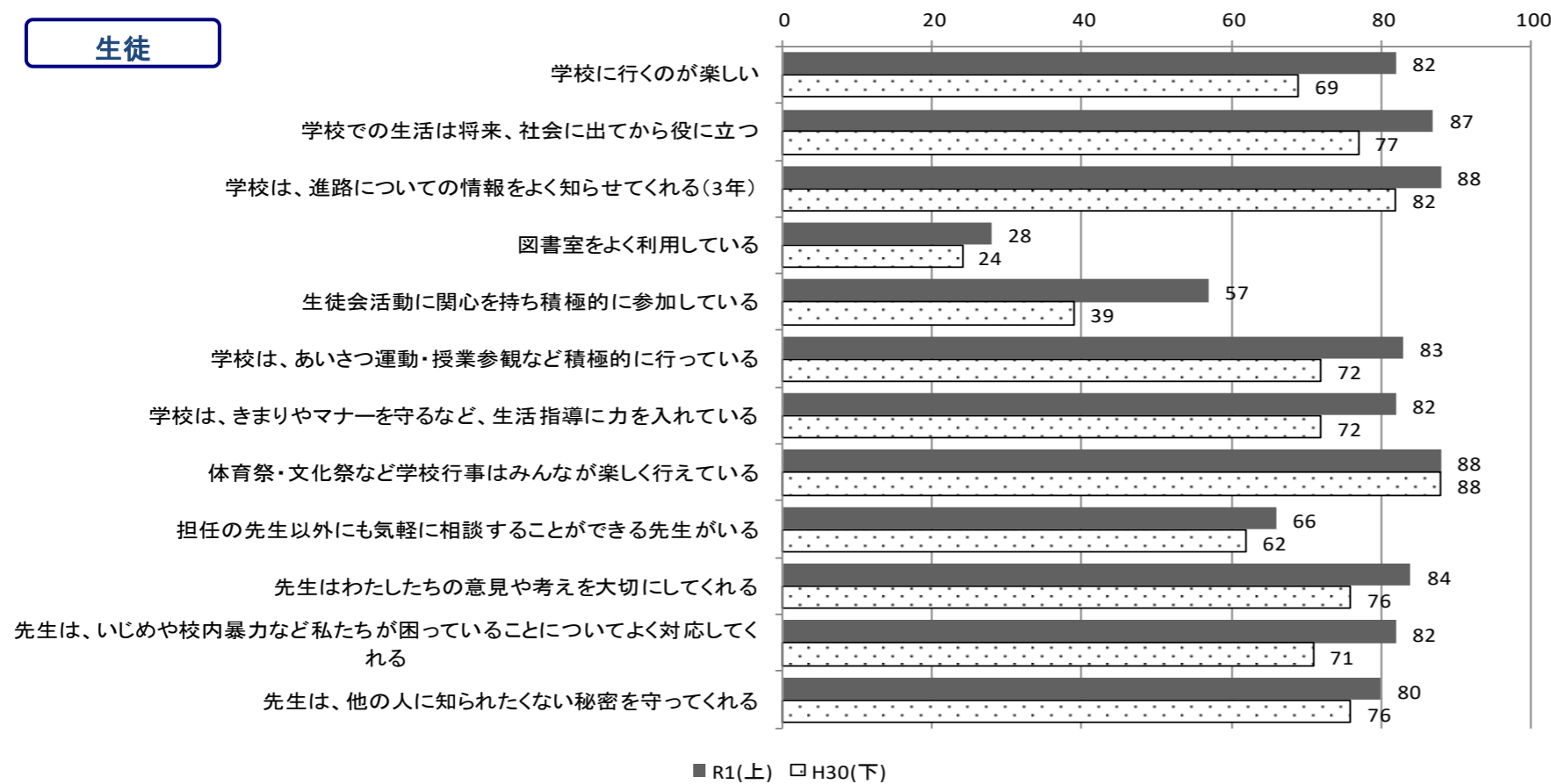


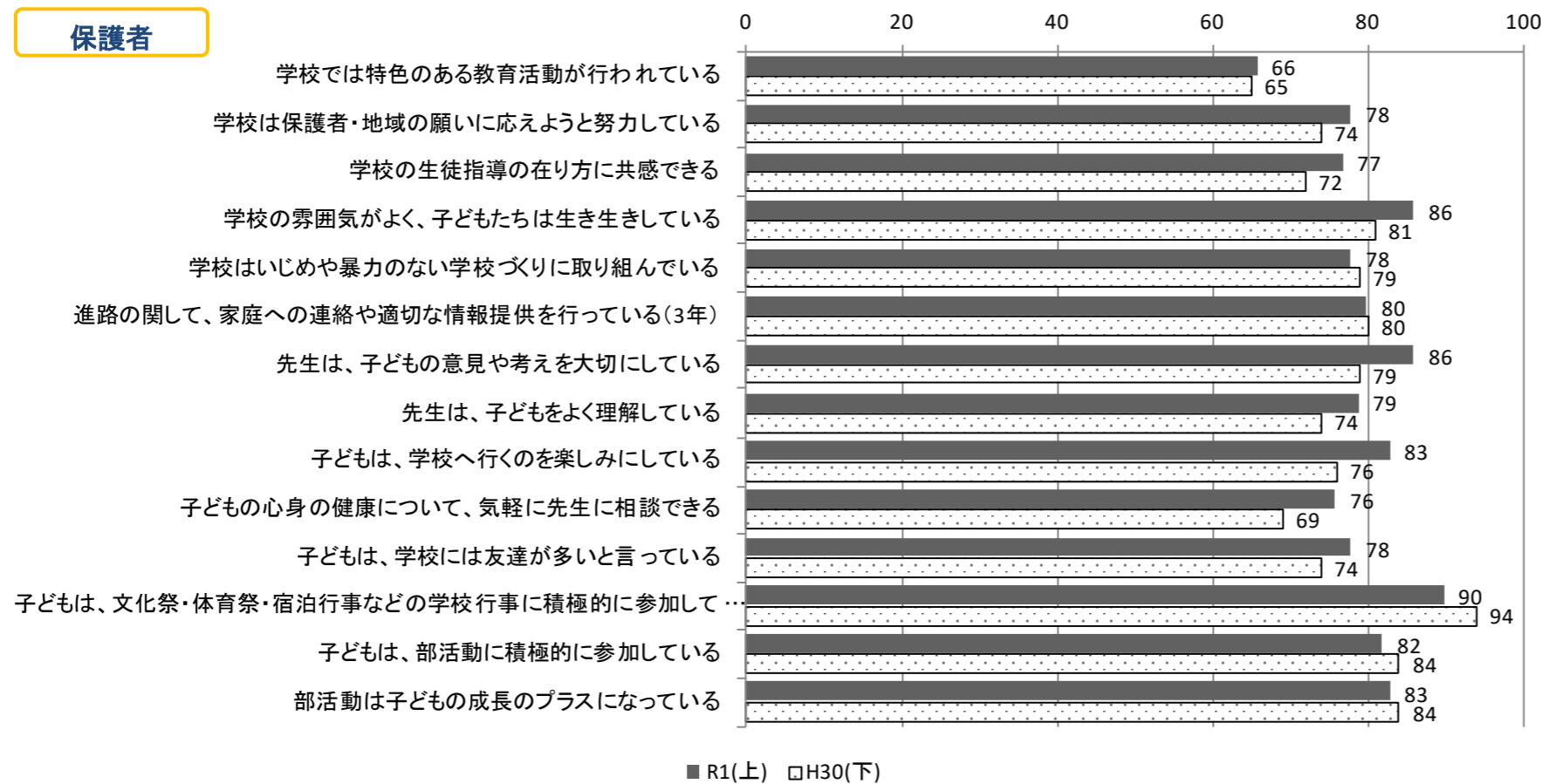
1. 学校生活 生徒指導等

注：グラフの各項目上段が令和元年度、下段が平成30年度を表しています

生徒



保護者



令和元年度 山田中学校学校教育自己診断結果概要

【アンケート実施目的】

子どもたちの学校生活を生き生きとした楽しいものにするため、学校の教育活動や組織について生徒や保護者の皆さまからの調査結果をもとに今後の学校改善の資料とする。

【アンケート実施日】 令和元年12月

【アンケート回収率】 生徒調査 92% 保護者調査 67%

【アンケート集計及びグラフの表示】

・回答項目の「A：よくあてはまる」「B：ややあてはまる」を肯定的回答としてグラフ化して表示しています。

○学校生活、生徒指導等に関する項目(生徒12項目・保護者14項目)について、昨年度と比較すると、生徒調査は「体育祭や文化祭など学校行事はみんなが楽しく行えている」の1項目のみが昨年度も今年度も88%で同じ結果であったが、それ以外の項目については、すべての項目で肯定的な回答の割合が昨年度の数値を上回った。特に「学校へ行くのが楽しい(+13%)」「学校での生活は将来、社会に出てから役に立つ(+10%)」「生徒会活動に関心を持ち積極的に参加している(+18%)」「学校は、あいさつ運動・授業参観などを積極的に行っている(+11%)」「学校は、決まりやマナーを守るなど、生活指導に力を入れている(+10%)」「先生は、いじめや校内暴力など私たちが困っていることについてよく対応してくれる(+11%)」と、6つの項目では10%以上の上昇がみられた。生徒が学校生活や学校行事に対して主体的に参加し、教職員との関係も「してもらう」のではなく「する」の姿勢を持ち出したことがこの結果に繋がったと判断している。一方、保護者調査では「学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる(-1%)」「子どもは、文化祭・体育祭・校外学習などの学校行事に積極的に参加している(-4%)」「子どもは、部活動に積極的に参加している(-2%)」「部活動は子どもの成長にプラスになっている(-1%)」の4つの項目で数値が低下し1つの項目が同じ結果であったが、それ以外の9つの項目は1~7%上昇した。

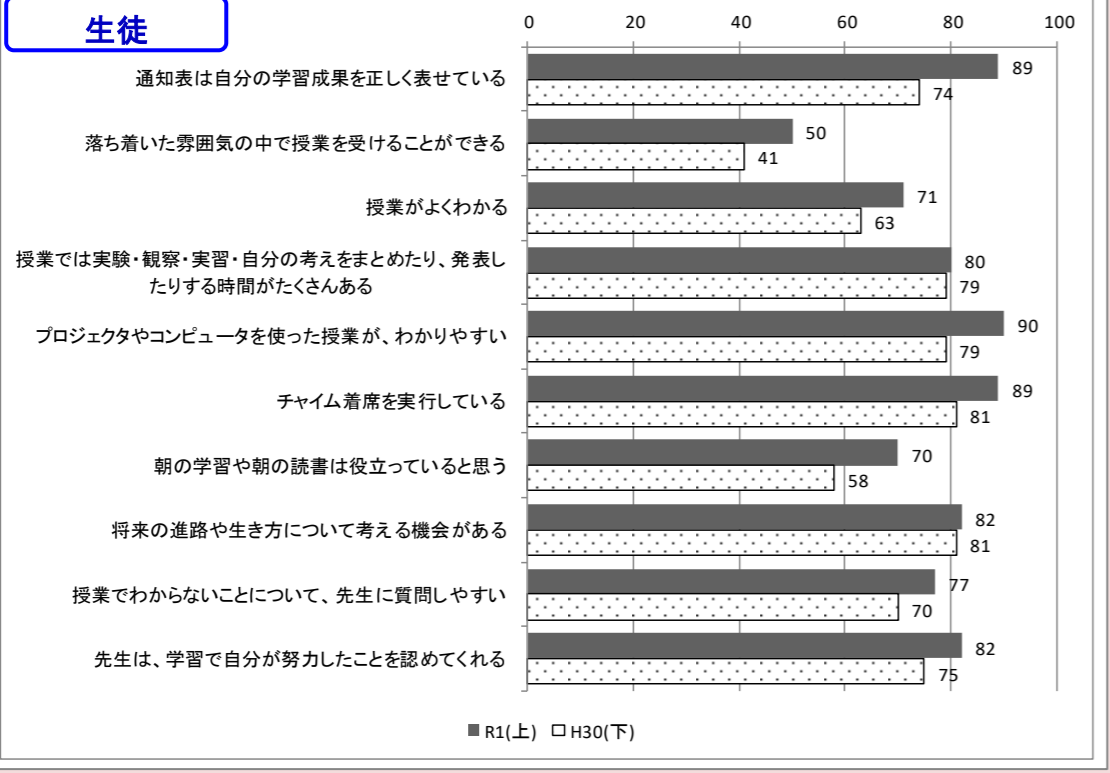
○生徒調査においては全体的に肯定的回答が上昇したものの、昨年度と同様に「図書室をよく利用している」の項目は28%と極めて低く、大きな課題と捉えている。校舎の関係で図書室の位置が管理棟の3階の東端と教室棟から行きにくい位置にあることも原因していると考えられるが、ビブリオバトル等の市の行事と学校の朝の読書活動と運動させるなど、授業や昼休み・放課後の図書室の利用が活発になるよう取組を進めたい。また18%の上昇がみられたとは言え「生徒会活動に関心を持ち積極的に参加している」の項目も肯定的回答が57%と高くはないことから、生徒会本部の魅力ある取組ももちろんのことながら、生徒一人ひとりが生徒会活動にさらに主体的に自分で考えて取り組んでいく姿勢を育てていきたい。その姿勢が、如何にこれからの社会に必要な姿勢であるかを子どもたちが自ら理解するように努めたい。加えて「担任の先生以外にも気軽に相談できる先生がいる」の項目も、そのほかの項目と比較すると低く、気になるところとなっている。この点についても、積極的に教師と生徒の関係が築けるように、生徒だけでなく教員自身も主体的に関係構築する環境づくりに努める。

○保護者調査は、昨年度との比較で、上昇した項目でも低下した項目でも大きな数値の変化は見られなかった。その中で「学校では特色のある教育活動が行われている」の項目が他の項目と比べると低いことから、「山田ふれあいタウン」をさらに発展させることにより生徒と地域や保護者の方とのつながりを深めるものにし、最近注目度が上がっている地域防災における自主防災の方や福祉委員、保護者の方と中学生が、ともに訓練する場を設定するなどし、生徒の自己有用感を高めるとともに、地域社会に目を向かされる大人を育成することにつながる取り組みなどを行っていきたい。

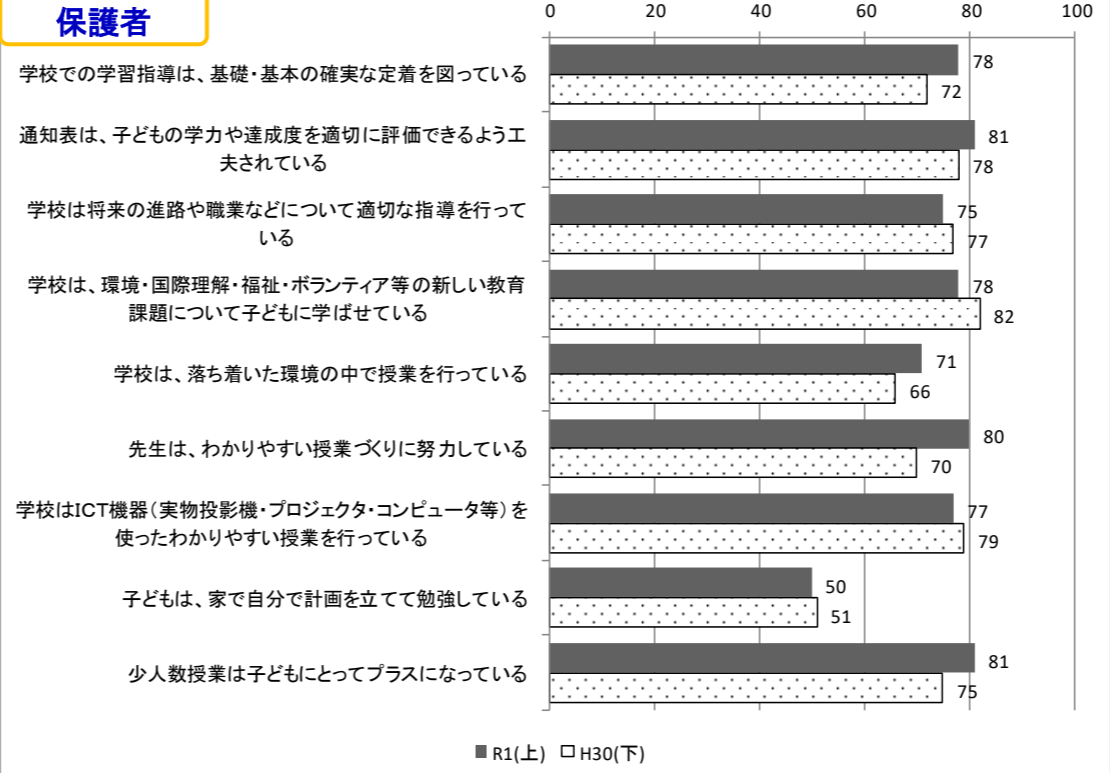
2. 学習指導

注：グラフの各項目上段が令和元年度、下段が平成30年度を表しています

生徒

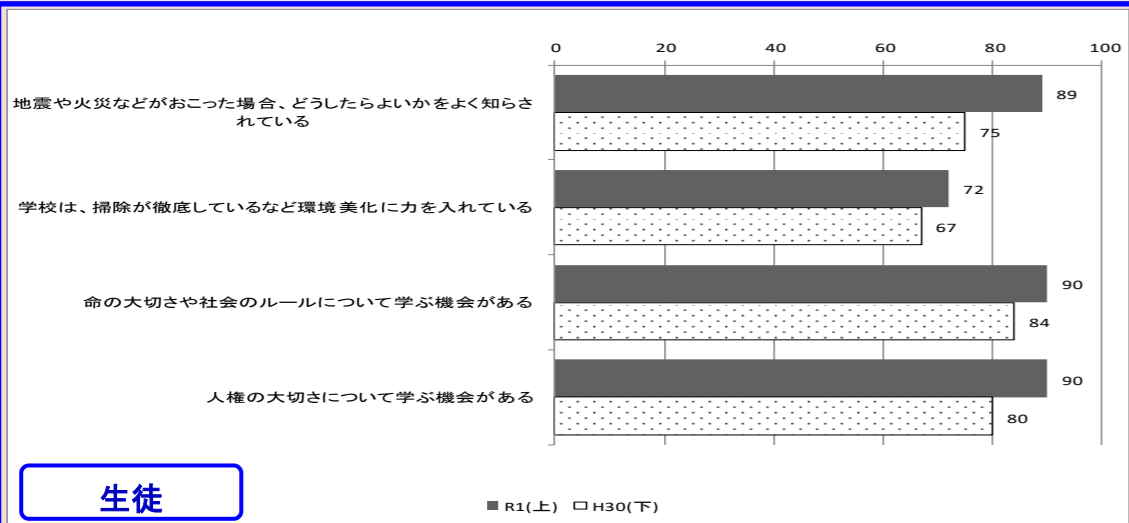


保護者

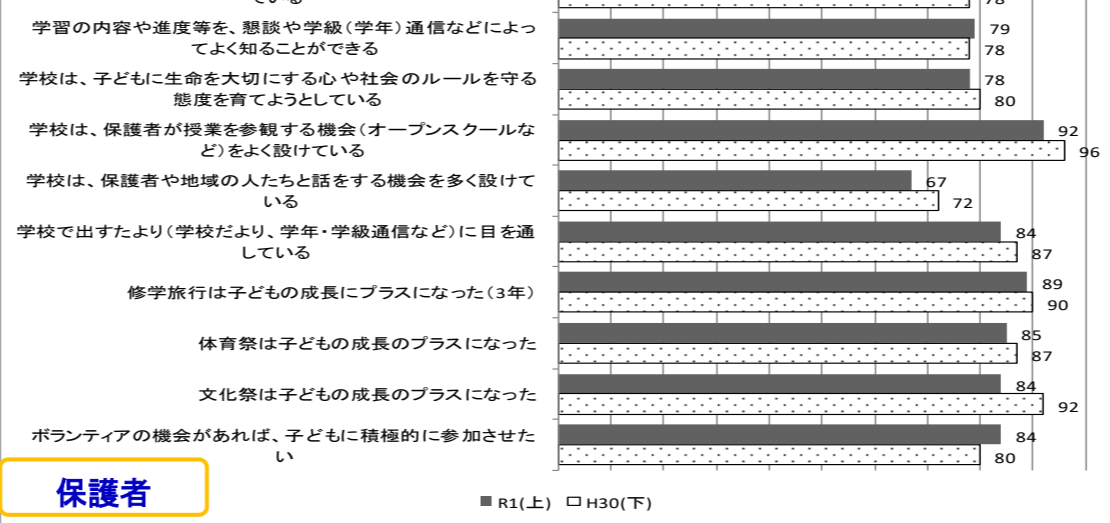


3. 学校全般・その他

生徒



保護者



4. まとめ

人工知能の急速な発達、少子高齢化による労働人口の割合減少等による急速な社会形態の変化により、今の子どもたちが社会に出るころに必要なとされる力は、かなり変化していると考えられる。基本となる人権意識においてもAIや医学の進展に合わせて、より複雑に高度化したものが必要となり、外国の方の文化や考え方への柔軟な理解力や協調性、様々な場面における日本社会全体の許容性の高さ等も必要となる。また労働面で必要な人材として、高い主体性、創造力、コミュニケーション力を伴った協調性、粘り強さ等々が今以上に強く求められると想像している。本年度から本校では、前述のこれからの時代を生きる子どもたちに必要となる様々な力の一番基礎となるものは「主体性」であると捉え、「してもらい させられる人から する人へ」をキャッチフレーズに学校の教育活動の様々な場面で主体性を引き出せる取組みを開始または準備・研究していま

す。さらに学習指導・生徒指導を2本柱とし「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して授業改善等の教育活動も進めています。今回の学校教育自己診断では、生徒調査で1つの項目が同率であったのを除き、すべての項目で肯定的回答の率が上昇しました。人は、してもらったりさせられたりしていると心が動きにくくなります。しかし、主体的に自ら考え行動すると、大きく心が動き感動します。「主体的にする」というたった一つの心の持ち方の変化で、それまでモノクロだった世界が、突然カラーの世界に変化するがごとく、例え同じ結果であったとしても、そこから得られるものは全く違った価値を持ちます。次年度からも学習指導・生徒指導を2本柱として、さらに授業改善や取組の改善を進め、学校の教育活動のすべての場面を活用して子どもたちの心に「主体性」を育てて参ります。

○学習指導に関する項目の生徒調査は、昨年度比較ですべての項目で肯定的回答の割合が前年度を上回った。「通知表は自分の学習成果を正しく表せている(+15%)」「プロジェクトやコンピュータを使った授業がわかりやすい(+11%)」「朝の学習や朝の読書は役立っていると思う(+12%)」の3項目は10%以上の伸びであった。5段階絶対評価の評価方法やICT機器の効果的な使用方法がここ数年間の取組で向上したものと考えられる。「落ち着いた雰囲気の中で授業が受けられる(+9%)」や「授業がよくわかる(+8%)」等も比較的高い伸びがあった。グループ学習の取組等の教職員の技術向上や子どもたちへの定着が功を奏したものと考えられる。○保護者調査では「先生はわかりやすい授業づくりに努力している(+10%)」と高い伸びがあった。これは生徒調査の「授業がよくわかる」に通じるものがあると考えられる。4つの項目で若干の減少があったが、このうち「学校は、環境・国際理解・福祉・ボランティア等の新しい教育課題について子どもに学ばせている(-4%)」の項目は減少率が高かった。次年度は総合学習の授業におけるこれらの取組や市が力を入れている防災等について取組の強化を図りたい。また「子どもは、家で自分で計画を立てて勉強している」の項目は肯定的評価の率が50%と極めて低く、さらに昨年度評価より1%下がっている。家庭学習の定着は以前から課題となっているので、難しい課題ではあるが方策を考え、取組を進めたい。

○学校全般・その他に関する項目の生徒調査では、昨年度比較で「地震や火災などが起こった場合どうしたらよいかよく知らされている(+14%)」や「人権の大切さについて学ぶ機会がある(+10%)」の2項目が10%以上の伸びとなった。「掃除が徹底しているなど環境美化に力を入れている(+5%)」は、伸びがあったものの率としては72%と他よりも低いことから、さらに取り組みを強化する必要があるが、生徒の美化活動はかなり活発なことから、生徒の美化意識の向上が値を低くしているとも考えられる。○保護者調査では全体的に肯定的評価の数値が減少しており、特に「文化祭は子どもの成長にプラスになった(-8%)」が保護者のすべての評価項目の中で最大の減少となった。また「学校は、保護者や地域の人たちと話をする機会を多く設けている(-5%)」「学校は、保護者が授業を参観する機会(オープンスクールなど)をよく設けている(-4%)」の2項目も減少幅が他よりも高かった。いずれの項目についても原因究明を進め、取組を強化したい。